

まるもり 議会だより

Miyagi Prefecture
Marumori Town Assembly
News

第274号



2026. FEB
令和8年2月1日

発行 宮城県丸森町議会
編集 議会広報常任委員会



“ありっ竹”で 遊びの天才！

(表紙のことば … 22ページ)

12月議会

病院経営改善へ 質疑集中	2 ページ
一般質問 12人の議員が町政を問う	4 ページ
議会の要望に町長が回答しました	18 ページ
令和7年度 政務活動報告	20 ページ



丸森町公式キャラクター
ねこがみとうぐいすP

病院経営改善へ 質疑集中

12月議会のあらまし

12月議会定例会を12月10日から12日までの日程で開催しました。

主な議決内容

2件

一般質問は12人の議員が行い、自らの考えを交え町長や教育長に質問するなど、活発な議論を行いました。

また、本定例会において各常任委員会および議会運営委員会の委員改選を行いました。

◆固定資産評価審査委員会委員の選任の同意

3件

各常任委員会および議会運営委員会の委員改選を行いました。

◆条例の制定

1件

各常任委員会および議会運営委員会の委員改選を行いました。

◆指定管理者の指定7件

7件

各常任委員会および議会運営委員会の委員改選を行いました。

◆一般会計ほか6会計の補正予算

6会計

各常任委員会および議会運営委員会の委員改選を行いました。

条例制定

全ての子どもへの育ちを応援
「こども誰でも通園制度」

0歳6カ月から満3歳未満の保育所などに通っていない子どもを対象に、認可を受けた保育所などを柔軟に利用できる事業を行うための条例を制定しました。全ての子どもの育ちを応援し、子どもの良質な育成環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらず、支援の強化が目的です。利用したい場合は、町へ申請を行います。この事業は、令和8年4月から始まります。

主な補正予算

丸森病院事業会計へ
2億円

令和7年度のZEB化工事完了と外科医師の確保にめどが付き、より多くの入院患者や外来患者を見込んでの当初予算編成でしたが、長期処方などでの患者数減少に加え、物価高騰の影響による診療材料費の支出増などで収益が減少しており安定した経営のため一般会計からの繰出金の増額を承認しました。8年度に新院長を迎え、診療体制の強化を図るとともに経営改善を進める方針です。

丸森町議会傍聴規則の一部を改正しました

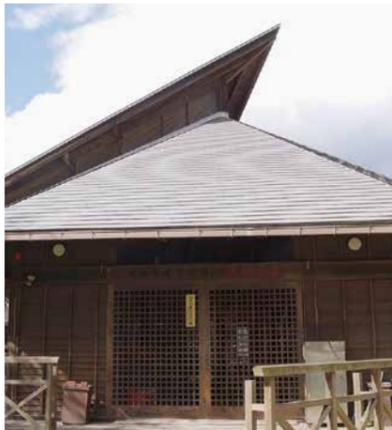
開かれた議会を目指し、より傍聴しやすい環境づくりを行うため、次のとおり規則を改正しました。

- ① 傍聴手続きの簡素化
- ② 傍聴人の守るべき事項の見直し
- ③ 年齢制限の撤廃
- ④ 写真撮影、録音、録画等に関する見直し

どなたでもお気軽に傍聴できますので、ぜひ傍聴にお越しください。

各施設の指定管理者の指定を承認しました

※指定管理者制度とは
施設の管理運営を民間事業者に包括的に委任する制度です。業務委託とは異なり、指定を受けた管理者は協定等の範囲内で独自の工夫をして管理運営を行うことができます。



丸森町産業伝承館
農事組合法人 美ファーム羽出庭



丸森町にぎわい交流拠点施設
特定非営利活動法人M. M. M



丸森町営放牧場、丸森町子牛育成センター
農事組合法人 丸森町酪農振興組合



耕野ふるさと交流センター
耕野たけのこ生産組合



大内活性化センター
一般社団法人 あずだす



峠堆肥センター
峠地区有機利用組合



筆甫堆肥センター
筆甫地区有機利用組合

【指定期間は
令和8年4月1日から5年間です】

※丸森町産業伝承館、丸森町営放牧場、丸森町子牛育成センターについては令和8年4月1日から3年間です。





わたなべ まさみ 渡辺 政巳 議員



一般質問動画

ヘメット市交流は

町長 派遣事業は終了

問①アメリカヘメット市との姉妹都市交流をなぜ停止したのか問う。
中学生の相互訪問、議員団の訪問、A-LTの招へい、ヘメット市からの訪問団、中学生の語学体験等、いろいろと交流をしてきた。世界を牽引しているアメリカを知るうえで大事な姉妹都市交流であった。なぜ停止したのか。
答①ヘメット市から本町への派遣は平成22年から10年間で1回だけとなり、ヘメット市への派遣事業の在り方について、丸森町姉妹都市交流協会の総会で、ヘメット市への派遣事業は令

和4年度をもって終了することに承認された。今後はメールやメッセージカードによる交流を行っていく。
問②北見市との姉妹都市交流について問う。
姉妹都市は旧端野町生誕100年を記念して結んだ平成の合併で北見市となり姉妹都市を継続してきている。今後の子ども交流、物産交流をどのように考えるか。
答②来年は姉妹都市交流30周年の節目を迎える。災害時には相互に応援できる環境を維持するとともに、交流事業を通して友好や、協力関係を深められるよう交流事業を継続する。
問③台湾との交流について問う。
台湾の小中学校3校と丸森町の小中学校3校が姉妹校として締結した。今後の交流をどう進めていくのか。

答③教育長 グローバル化が進展する新しい社会の中で、子どもたちが自立した個人として活躍していくために、児童生徒が視野を広げ、豊かな国際感覚を養い、夢や目標の具現化に向けて、学びに向かう力を育むことができるよう、国際交流、語学学習活動の充実を図っていく。



ヘメット市と姉妹都市を結びきっかけとなった交流会

一般質問

町政を問う

一般質問とは、町に対して事務の執行状況や将来に向けての考えをたずねるものです。今回は12人の議員が質問しました。

ページ	議員	質問事項と回答
5	渡辺 政巳	●ヘメット市交流は 町長 派遣事業は終了
6	船山 俊一	●自治体DXの推進は 町長 さまざまな分野で推進する
7	鈴木 美智子	●学校給食、熊対策、猫神は 町長 検討、安全確保、共生図る
8	石井 央	●自治体の所得格差は 町長 所得向上を図る
9	大槻 正儀	●積極的な国際交流を 町長 多文化共生を進める
10	中津川 かおり	●住民福祉を叶える施設を 町長 責任をもって取り組む
11	板橋 勇	●物価高騰対策は 町長 臨時議会で示す
12	山本 明德	●教職員の休憩時間の確保は 教育長 確保されている
13	金森 裕之	●町中心部の空き店舗活用は 町長 新たな活用に向け支援
14	大槻 孝雄	●脱炭素推進室設置を 町長 専門部署は設けない
15	八巻 真由	●猫のまち、動物愛護推進を 町長 人と猫 共生の町を目指す
16	海川 正則	●高齢者等への支援策を 町長 調査研究を始めている





鈴木美智子 議員



一般質問動画

学校給食、熊対策、猫神は

町長 検討、安全確保、共生図る

問① 現在本町が行っている小中学校の給食費無償化を令和8年度から国が行うがどんな方針なのか。
答① 国の具体的な制度設計が定まらず、財政措置もまだ示されていない。

問② 学校給食費は一般財源で支出している。国措置での減額分は、他自治体になり独自の献立や食育に関する施策に使うてはどうか。
答② 町の財政状況を踏まえ、給食だけではなくさまざまな課題に対応するため総合的に予算を編成する。献立には町の特産品を取り入れている。食文化に触

れる活動でふるさと丸森への理解を深めていく。
問③ 老朽化し修繕して使用している学校給食センターはどうしていくのか。
答③ 児童生徒数の減少等を見据え、町内小中学校の在り方と併せて早期に結論を出しながら対応する。

問④ 本町でも例年になく熊の目撃が多い。人身や農作物への被害を防ぐ安全安心対策をどう講じているか。
答④ 熊対策に関するチラシでの注意喚起と目撃情報を安心安全メールや広報車等で迅速に配信し、駆除隊による見回りや箱わな設置で被害の未然防止に取り組んでいる。

市街地などに頻繁に出没し緊急度が高いと判断した場合、放任果樹等の撤去などを含め効果的な対策で町民の安全確保に努める。



給食で体も心も温まる（食育で町産米ゆうだい21を提供）

問⑤ 猫碑と生きている猫を猫神に例え、町民と来町者が良好な関係にある一方で、不適切な飼養で糞尿被害等がある。猫は愛玩動物で飼養者に責任があるが飼育方法の啓発等、町の役割は。

答⑤ 飼い主への指導を行っている。今後はイベントでの啓発活動や、動物保護団体との情報共有と連携で、人と猫が安心して共生できる町となるよう取り組む。

自治体DXの推進は

町長 さまざまな分野で推進する

本町において、人口減少が加速する厳しい状況のなか、将来を見据え、デジタル技術を活用することによって、業務の効率化と住民サービスの質の向上を図り、持続可能な行政運営を目指すことは重要である。自治体DXの推進に向け、町長に問う。

問① 自治体DXの方向性を示す、丸森町DX推進計画の策定は、最重要であると考えますが、進捗状況を問う。
答① 現在、若手や中堅職員を中心とした丸森町DX推進計画策定部会を設置し、検討を進めている。

問② DXの取り組みは多岐にわたるが、どの分野を最優先に進めるのか。
答② 行政手続きのオンライン化や防災情報の一元化、データ基盤の整備、外部人材の活用、全庁的な業務棚卸しの実施など、DXで取り組むべき事務等は、多様な分野に関係することからその優先順位については、策定部会で検討を進める。

問③ DXを推進することにより、職員の負担軽減や、時間外勤務の縮減につなげるべきと考えるがどうか。
答③ 職員の業務が減らないなか、DXを進めることによって、働き方改革にも結びつけていきたい。



町の将来を見据え、DXの方向性を議論（DX推進計画策定部会）



船山 俊一 議員



一般質問動画

令和8年3月に、3年間を計画期間としたDX推進計画を策定し、本町のDXを加速させる。

通信機器の活用が苦手な方もいる。このような住民に対し、手厚い支援や伴走体制の整備を検討すべきではないか。
答④ 住民がデジタル化の恩恵を受けることができる、誰ひとり取り残さないデジタル社会の実現に向け、DX推進計画を策定し、さま

さまざまな分野でDXを推進していく。
※自治体DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは
行政手続のデジタル化などを通じて、住民の利便性向上と業務の効率化を図るものです。



おおつき まさよし 大槻 正儀 議員



一般質問動画

積極的な国際交流を

町長 多文化共生を進める

本町の人口は社会減と自然減とが相まって減少の一途であるが、本町の第一次二次三次経済の低さと生産年齢人口の流出、未婚が要因と考えられる。課題解決のために、人的経済的国際交流を進めるべきと考え町長に問う。

問①子育て対策は、国県他市町村に先駆けてあらゆる支援策を講じてきたが、出生数は減少の一途である。要因のひとつは高い未婚率と思うが、国際交流の中で低減を図る考えはあるか。
答①婚姻を目的とした国際交流はしないが、多文化共

生のもとに、国籍を問わず婚姻を希望する住民が、婚姻できる環境整備や事業を引き続き実施していく。
問②農業や中小企業では後継者不足、人手不足が要因での経営難や廃業等がある。町内の大切な就労の場の持続的発展につなげるため、外国人労働者の受け入れ協議会等を設け、関係者と一体となって、企業支援と男女を問わない外国人労働者を支援する考えはあるか。
答②令和7年3月時点では町内9事業所に49名と介護施設に8名の外国人労働者が働いている。

今後外国人労働者は拡大が見込まれるので、企業経営安定の支援継続と、外国人労働者が、孤立せず安心して生活できる環境づくりを実施していく。
問③観光業をはじめサービス業の展開には、国内外を問わない交流人口の増加策が必要だが、現状をみれば、



令和7年5月から町内の企業で働く、ベトナム出身のチュックさん（左）とタオさん（右）

町が主導すべきことは明白である。早々の取り組みに期待するがどうか。
答③交流人口の増加は大変重要なので、現在およそ52億円の観光消費額を令和14

年には80万人80億円を目標にして、MIZBEステーションやオルレ丸森コースの整備と外国人旅行者向けの案内板設置等を進める。

自治体の所得格差は

町長 所得向上を図る

河北新報は令和7年10月8日、七十七リサーチ&コンサルティングが公表した県内35自治体間の所得格差について報じた。本町は、令和2年の町民一人あたりの所得は103万円で34位、平成27年は97万円で27位であった。町長に問う。

問①新聞報道、七十七リサーチ&コンサルティングのレポート公表についての感想、町民所得向上についての対策と決意は。
答①統計の取り方として疑問を持つと同時に、県内自治体をランキング形式で公表しているため、本町が就

業者の所得水準が低いという誤解を与える。町民が豊かになるための取り組みは町として進める。金山工場団地への企業誘致を早期実現し雇用創出と町民の所得向上を図る。農家所得を増加させる儲ける農業を推進、持続性のある農業経営体の育成、収益性の高い部門や作物への転換、基盤整備の実施、スマート農業の導入など本町が進めている施策を着実に実施し、数字上の豊かさを追求するのではなく町民が真に豊かさを実感できるま

ちづくりを進める。
問②第六次丸森町総合計画実施計画のあぶくま荘関連を令和8年度当初予算に計上し、早期建て替え実現を図り低迷する町勢の起爆剤にすべきでは。
答②町総合計画及び5年3月に策定した丸森町観光振興計画において、あぶくま荘の将来的在り方、温泉施設整備の可能性を調査検討



いしひ ひろゆき 石井 央 議員



一般質問動画

し計画上の重要項目と明記している。温泉施設を整備する場合、現在の施設の全部または一部の建て替えが必要と考える。

町の財政状況や観光需要の動向などを総合的に勘案し最適な方法を検討し、本町全体の活力向上に寄与する施設となるよう取り組む。



早期実現、金山工場団地への企業誘致



いたばし 勇 議員
板橋



一般質問動画

物価高騰対策は

町長 臨時議会で示す

町の当初予算は例年12月から翌年の1月末に確定する。高市政権は経済対策を発表した。報道によると補正予算と減税効果額を合わせ経済対策の規模は21・3兆円となっている。町長に問う。

問① 経済対策等の減税で町の歳入面で減額の見込みとなる地方交付税以外の譲与税や交付金はどうなるか。

答① 揮発油税等の廃止は地方財政に影響がある。

町には令和6年度決算額で2853万円が交付されたが、現時点では公表され

ておらず影響あるものと捉えている。

問② 子ども一人あたり2万円の支給で、丸森町全体の額はいくらか。

答② 試算では対象児童は1175名で額は2350万円と見込んでいる。

問③ 本町に交付される予定の重点支援地方交付金、食料品の物価高騰に対する特別加算額はいくらか。

問④ 令和7年の米騒動、価格高騰。年々暑さが厳しくなるなかで暑さに強い米品種か。

答⑤ 検討していく。



作付け面積の拡大が期待される ゆうだい21

住民福祉を叶える施設を

町長 責任をもって取り組む

地方自治法244条1項で普通地方公共団体は、住民の福祉を増進する目的で、その利用に供するための公の施設を設けるものとしていいる。住民の福祉とは、住民の生活を向上させるための公的支援やサービスであり、個人のニーズに応じた多様なサービスが提供されるような取り組みである。しかしながら、現在の指定管理施設は、住民の要望に応じたサービスの提供が乏しく、町民から不満の声が上がっている。住民の福祉を叶える施設運営を講じるべきと考え、町長に問う。



なか がわ 中津川かおり 議員



一般質問動画

問① 観光交流人口増のために商観光業を牽引し、受け皿となるべき観光交流施設の指定管理者に求めることや方針はどう考えるのか。

答① 各指定管理者ともに、施設の適切な維持管理と併せて各種イベントの開催等の自主事業を行いながら、施設の有効活用を努めており高く評価している。

問② 天水舎の利用状況とその評価は。

答② 町民の憩いの場の提供と併せ、本町の自然環境や地域資源に触れる機会の創出、交流人口の拡大につながっていると捉えている。

答③ 天水舎は立地の面からも町民の期待が大きいと認識している。シェアキッチン整備は、可能性のひとつと捉えるが、条例等の整理が必要と考える。施設の条件整理や安全面、指定管理者の運営体制等を総合的に考慮しつつ、より多くの方が交流できる施設となるよう、さまざまな活用方法を選択肢に加えて検討する。



町外からも訪れる生産地見学者や援農ボランティア (耕野地区)

答③ 具体的には示されていないが、この交付金の令和7年度の予算規模を基に試算すると3倍超の1億8000万円を見込んでいる。今回の経済対策は7年度の補正予算なので速やかに措置できるよう、8年1月予定の臨時議会で提出予定である。

答④ 本町では6年度から農業創造センターを中心に暑さに強い米ゆうだい21の栽培を行い、作付け面積は約3haである。8年度は6haに拡大していく。



かなもり ひろゆき 議員
金森 裕之



一般質問動画

町中心部の空き店舗活用は

町長 新たな活用に向け支援

令和7年2月、町中心部に位置するスーパービック丸森店が閉店した。この店舗はコミュニティの場やデマンドタクシーのまちなか拠点としても利用され、丸森病院にも近く通院時の買い物拠点として多岐にわたり住民から親しまれてきた。しかし閉店により、特に高齢者や車を持たない住民にとって買い物の利便性が損なわれたと感じる。今後の空き店舗の利活用について町長に問う。

問① スーパー閉店後、日用品や食材の購入に町中心部から離れた館矢間地区や近隣自治体へ足を運んでいる状況である。町はこの状況をどう捉えているのか。また、高齢者や車を持たない住民への影響についてどのように認識しているのか。

答① 近隣の薬王堂丸森店は食材の購入は可能だが、生鮮食品や惣菜等は食品系スーパーと比較すれば十分とはいえない。高齢者等への生活の影響は、少なからずあると認識している。

問② 新たなスーパーや商業施設の誘致、コミュニティの場を望む声がある。町中心部にぎわいと住民の生活向上を図るため積極的な誘致活動や、町独自の支援策を展開すべきではないか。

答② 旧スーパービック丸森店の場所は、民間企業が所有しており、町が直接関与することはできない。補助金制度を活用し開業した店舗は町中心部で5件あり、にぎわい創出と活性化に大きく寄与している。

問③ 町は今後、どのような検討をして利活用に向け施策を展開していくのか。

答③ 当該企業とは継続的に連絡を取っており、良好な関係を築いている。今後は、補助金制度等の情報を提供しながら利活用に向け支援を検討していく。



新たな利活用が待たれる空き店舗 (旧スーパービック丸森店)

教職員の休憩時間の確保は

教育長 確保されている

教職員の長時間労働は精神的肉体的疲労を蓄積させ、精神疾患や過労死につながることはいうまでもなく、子どもたちが学校でいきいきと学ぶことができるのは教職員が心身ともに健康であってこそである。日本の教職員の1週間あたりの仕事時間は小学校が52時間、中学校が55時間という現状である。本町の教職員の長時間労働の解消にむけ、教育長に問う。

問① 本町の教職員は、労働基準法で定められている45分の休憩時間が取れているか。

答① 中学校では適正な持ち時数のなかで授業準備に充てており、小学校においても週あたり25時間の授業時数のなかで、5時間の空き時間があり授業準備を行うことは可能である。また、標準授業時数を上回らないよう配慮している。

問② 教職員にとって最も大事なものは授業である。本町の教職員は、勤務時間中に授業の準備ができていますか。また、標準授業時数を大きく上回る授業時数の設定となっていないか。

答② 小学校では概ね1カ月あたり40時間以内であるが、中学校では80時間を超える教職員も多い。



冬休みが終わり、子どもたちの声に戻った学校 (館矢間小学校)



やまもと あきのり 議員
山本 明德



一般質問動画

問③ 教職員には、特別な場合を除いて残業代が支払われないことになっている。勤務時間外に学校に行っている仕事は自主的、自発的なものという位置づけであり、時間外在校等時間と

なっている。町内の教職員の実態はどうか。

答③ 80時間を超える教職員には産業医との面談を勧めるとともに、時間外の多くを占める保護者対応や生徒指導対応について対策を図っていく。



やまき まゆ 議員
八巻 眞由 議員



一般質問動画

猫のまち、動物愛護推進を

町長 人と猫 共生の町を目指す

養蚕業に由来する猫神は、本町の歴史や文化、地域性を象徴する特色であり、町では猫神に関する多様な取り組みを展開している。保護猫活動団体が空き家を改修した保護猫カフェをオープンするなど、猫の保護活動も進んでおり、着実に猫のまちとしての認知が広がっている。

一方で、以前から猫の飼育に関する問題もある。猫のまちとしての在り方と、動物愛護の重要性について、町長に問う。

問① 現在、猫のモチーフを使って観光消費を増やすた

答① 全国の愛猫家から関心を寄せてもらうためにも、適正な飼育を周知しながら保護猫活動の支援を検討し、猫を大事にする町としてのイメージアップを図る。

問② 動物愛護管理法が厳罰化されたが、町内では多頭飼育崩壊や遺棄、殺傷などの問題が発生している。飼育動物問題の源流には、人間の福祉的課題がある。福祉支援の充実や避妊手術が必要ではないか。

答② 動物愛護行政と福祉行政の連携は必要。関係団体

一般質問 ■ 八巻 眞由議員



約20匹の猫と触れ合える保護猫カフェ（小斎地区）

と連携を図る。飼い猫を含めた手術助成も検討したい。

問③ 保護団体の役割は大きい。ふるさと納税に保護猫グッズの販売利益から寄付

を行うなど、団体への支援が必要ではないか。

答③ 団体への支援を検討する。情報共有や啓発活動など、連携協力しながら人と猫が共生できる町を目指す。

脱炭素推進室設置を

町長 専門部署は設けない



たかお おおつき 議員
大槻 孝雄 議員



一般質問動画

本町は令和6年3月4日2050年ゼロカーボンシティ宣言をした。町全体の脱炭素実行計画作成のため庁舎内に専門チームを設け地域資源を最大限活用し、クリーンエネルギーによる自給自足のまちづくりを進め、町発展を図るべきと考え町長に問う。

問① 丸森町地球温暖化対策実行計画は、本町の公共施設や公用車などを対象にした計画である。隣接する白石市、角田市、巨理町は域内全体の温室効果ガス排出量、再生可能エネルギーのポテンシャル、森林のCO₂

問② 鹿角市では脱炭素と経済発展を図るためゼロカーボン推進室を設置。県と環境省から職員を受け入れ再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、市、銀行、地元企業などが出資し設立した地域電力会社で100%再生可能電力を鹿角市、域外に売電、市民には6円安く供給している。本町もゼロカーボン推進室を設け、地域電力による町発展を図るべきではないか。

答② 鹿角市のように専門部署を設ける考えはないが、地球温暖化対策意識の醸成、脱炭素に向けた普及、啓発、次世代教育の推進、地域資源に適した事業を展開して

いく。また、本町では電力施設を各所に建設し町が地域電力を創出、一つの産業として成立させるのは大変困難であると考える。



自然が生み出す豊かなエネルギーを地元に（鹿角市の自治体新電力「かづのパワー」）

委員会のメンバーが変わりました

議会運営委員会（議会の円滑な運営を行うために常時置かれている委員会）と常任委員会（町の事務を専門的に調査するため常時置かれている委員会）のメンバーを改選しました。

●任期：令和7年12月10日から令和9年11月30日



委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
大槻	鈴木	渡辺	板橋	菊池	金森
正儀	美智子	政巳	勇	修一	裕之



委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
鈴木	山本	八巻	金森	大槻	渡辺
美智子	明德	真由	裕之	孝雄	政巳



委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
大槻	石井	海川	菊池	船山	中津川	板橋
正儀	中央	正則	修一	俊一	かおり	勇



委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
中津川	金森	大槻	八巻	山本	鈴木
かおり	裕之	孝雄	真由	明德	美智子

高齢者等への支援策を

町長 調査研究を始めている



うみかわ まさのり 議員
海川 正則



一般質問動画

令和7年2月、突然、町中心部の大型スーパーの閉店に衝撃が走った。9月議会での船山議員による移動販売車の導入についての一般質問に対し、町長は地域の意見を聞きながら検討を進めると回答した。この問題は、健康状態の悪化などにより長い距離を移動することが難しい高齢者や介護サービスが受けられない方にとっては今日も日常生活に必要な物品の購入に苦勞しており、喫緊の問題となっている。解決には、移動販売車により町内全域を回ることで、買物弱者を救うこと

はできないと考える。また、高齢者等が、町外の病院に通院しなければならなくなった際、物価高騰も続いていてタクシー代の負担が大きく、他の自治体ではタクシー補助を行っている自治体もあるようだ。移動販売車の導入と、高齢者や買物弱者への支援策について町長に問う。

問① 民間事業者に依頼し、町内全域で移動販売車に回してもらってはどうか。
答① 移動販売車に関する調査研究を始めており、結果を踏まえ、民間事業者への働きかけや、連携による買物弱者対策を講じていく。

問② アンケート調査の実施や、買物に行くのが困難な高齢者等の実態を地域毎に把握してはどうか。
答② 令和8年1月実施の介護サービス等ニーズに係るアンケート調査において、項目を追加したいと考えている。

問③ 町外病院への通院支援として、あし丸くんの町外延伸について検討は。
答③ 道路運送法上の制約等から、町外延伸はできない。

問④ タクシーチケット等による負担軽減策は。
答④ 令和8年度におけるタクシー料金助成事業のモデル的な実施に向けて、制度内容について調整を進める。



高齢者の買物支援に期待（移動販売車）

議会の要望に町長が回答しました

令和6年度決算審査を通じた議会要望への回答

空家対策と生活環境

要望丸森町空家等対策計画に基づき、特定空家等への対策に努め、住民の生活環境の保全を図ること。

回答空家等対策協議会で検討しながら、住民の生命、身体、財産を保護し、安心して暮らせる生活環境の保全に努める。空き家バンクの活用支援を進め、地域の安全と定住促進を進める。

町税等収入の確保

要望町税や使用料の確実な徴収に努め、収入未済額の縮減を図ること。納税貯蓄組合の役割も大きいことから継続的に支援すること。

回答常習的な滞納者は仙南地域広域行政事務組合に業務を移管し、徴収を進め、収入未済額の縮減を図る。納税貯蓄組合は継続して支援するとともに、在り方について引き続き検討する。



空き家のことはじゅーびたっまで

農地基盤整備の早期完了

要望農地基盤整備（圃場整備）への取り組みは、早期完了を目指すとともに耕作者負担の軽減を図り、農業の持続的発展に努めること。

回答農地基盤整備事業に係る予算確保を国や県に強く要望するとともに、関係機関と連携し、事業の早期完了と耕作者負担軽減につながる取り組みを進める。

選ばれる病院経営

要望丸森病院は全身を診る医療等の強みを活かし、利用者の満足度を上げ、選ばれる病院となるよう努めること。

回答東北大学病院、みやぎ県南中核病院と連携を図り、全身を診る医療の提供を行う。住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、高齢者や家族の支援を行う。



圃場整備が予定されている竹谷地区

集落支援員の役割

要望集落支援員の果たす役割は大きい。地域の課題解決に向け、町と住民自治組織が一体となり集落支援員のスキルアップを図ること。

回答集落支援員等を対象に情報交換会や、研修等も実施している。集落支援員のみならず自治組織職員全員のスキルアップや組織強化につながるよう引き続き支援する。



丸森地区 集落支援員が企画しているこども食堂

道路改良工事と無電柱化

要望道路改良工事及び無電柱化等工事は、速やかに完了させ、町民生活の利便性の向上を図ること。

回答各路線において、住民の理解と協力を得ながら、工事中の安全確保に努め、計画的に取り組んでいく。無電柱化等工事は、令和8年度に着手できるように努める。

除染土壌の集約

要望仮置場等に保管されている除染土壌の集約予定地が示された。集約業務がスケジュールどおりに実施できると早期に住民へ周知し、事業推進に努めること。

回答住民や地権者等への説明会や懇談会を行い、地権者や耕作者から、概ね理解を得たが、引き続き丁寧な説明に努める。



除染土壌の集約予定地

観光コースの整備

要望来町者が四季を通じて丸森の自然、歴史、食を満喫できるように観光トレッキングコース等の充実とオレ丸森コースの認定に向け取り組むこと。

回答オレ丸森コースを選定し、必要な安全対策等の整備を進めながら、宮城県や、韓国済州オレと連携し、早期の認定に向けて取り組む。

不登校の児童生徒の支援

要望不登校児童生徒が多い生徒児童一人ひとりに応じた支援を継続し、保護者同士の交流など新たな取り組みを進め、保護者の不安解消に努めること。

回答子ども心のケアハウスの機能充実に努め、保護者参加型の機会を設けるなど、家庭、学校、地域との連携を深め、一人ひとりの実態に応じた支援を図る。

令和7年度政務活動報告

政務活動費は、調査研修等のため、議員一人あたり年額6万円を上限に交付されます。上限を超えた場合は自己負担となっております。

地域経済の新しい形 9月6、7日

香川県三豊市

10年で40社が創業し、100件のプロジェクトと30億の投資が生まれ、観光客は100倍に。地元経営者たちが出資し作ったホテル浦島ヒレッジ、地域の学びの拠点暮らしの大学、6



地元住民が30年美化活動を続け年間51万人が訪れる父母ヶ浜

年で観光客が92倍に増えた父母ヶ浜、ローカルD.A.Oで新たに作る身の丈商店街、移住者が定着しやすくなるベーシックインフラの仕組みなど、2日で20件の先進事例を学んだ。報告者 八巻 眞由 議員

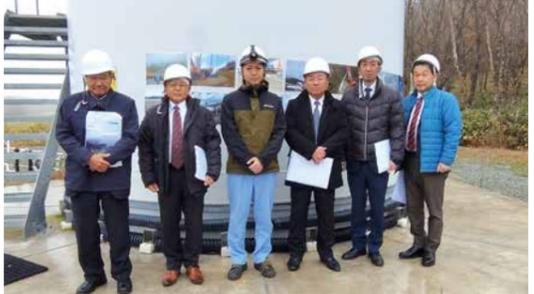
支出状況 単位：円

議員名	調査研修費	政務活動費
八巻眞由	60,000	60,000

脱炭素で地域発展都市 10月30、31日

秋田県鹿角市

①2030年ゼロカーボンシティ、地域エネルギーの取り組み
②EV車(コムス)試乗
③太陽光発電
④地域電力(株)かづの
⑤道の駅かづの



姫神山ウィンドパーク、風力発電 内部視察

報告者 大槻 孝雄 議員

支出状況 単位：円

議員名	調査研修費	政務活動費	議員名	調査研修費	政務活動費
大槻孝雄	34,950	34,950	船山俊一	34,950	34,950
金森裕之	34,950	34,950	佐藤吉市	34,950	34,950
菊池修一	34,950	34,950			

持続可能なまちづくり 11月10、11日

福岡県久山町

①地域経済循環
②医療DX
国で視察に来ている
③まちかぎりモート他
福岡県宗像市
①道の駅むなかた
じゃらん道の駅グラン
プリ2025全国2位



町長や職員と意見交換をした久山町

報告者 石井 央 議員

支出状況 単位：円

議員名	調査研修費	政務活動費	議員名	調査研修費	政務活動費
中津川かおり	65,986	60,000	渡辺政巳	66,207	60,000
山本明德	65,856	60,000	石井 央	64,936	60,000
鈴木美智子	66,076	60,000	板橋 勇	64,436	60,000
大槻正儀	65,906	60,000			

議員を傍聴して



丸森地区 齋藤 信一さん

ネット中継は質問している議員だけが映りますが、傍聴席からは全議員の様子をチェックすることができます。皆さんも傍聴してみてくださいでしょうか。



丸森地区 大槻 博文さん

傍聴は初めてです。静かな場所で慎重に審議しており、ひとつの議題に議員のいろいろな考えで質問して、いろいろな考えで質問して、農業の発展にも力を入れて欲しいです。

議員の会議出席状況

令和7年10月から12月31日 ○：出席 ×：欠席 △：遅刻・早退 -：員外

月	日	公務名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		※丸森町議会及び宮城県議長会、仙南議長会が主催している会議や研修等を抜粋しています。※会議名等は略称を使用しています。	八巻 眞由	中津川かおり	大槻 孝雄	金森 裕之	山本 明德	鈴木美智子	大槻 正儀	渡辺 政巳	菊池 修一	石井 央	海川 正則	板橋 勇	船山 俊一	佐藤 吉市
10	1	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
10	8	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
10	15	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
10	28	宮城県議会・市町村議会議員セミナー(宮城県庁)	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○
11	14	議会広報研究会(自治会館)	○	○	○	○	△	○	-	-	-	-	-	-	-	-
11	18	第2回丸森町議会改革等調査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	-
12	3	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	3	議会運営委員会	-	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○
12	10	第7回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
12	10	総務民生常任委員会	○	-	○	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
12	10	産建教育常任委員会	-	○	-	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○	-
12	10	議会運営委員会	-	-	-	○	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○
12	10	議会広報常任委員会	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
12	11	第7回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
12	11	第5回丸森町議会七十年史編さん特別委員会	-	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	○
12	12	第7回議会定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	18	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

特別委員会活動報告

除染廃棄物仮置場等に関する調査特別委員会 9月26日

・集約予定地の現地視察
・今後の計画等の聞き取り

丸森町議会改革等調査特別委員会 11月18日

・今後の調査方針について

丸森町議会七十年史編さん特別委員会 12月11日

・発行スケジュール
・掲載記事等の最終確認





子ども一人ひとりの個性を伸ばす

金山地区

障害児通所支援施設 代表 菅野 智嘉子 さん

令和7年4月より、旧金山保育所の一部を改装し、障害児通所支援施設を運営している、代表の菅野智嘉子さんにお話を伺いました。

Q どのような思いからこのような事業を立ち上げたいと決心しましたか。
A 私の子どもも発達障害を持っており、療育施設を見学しましたが、送り迎えの問題があり、学童保育に至っては、控えてほしいと言われ減になれればと思いきり起業しました。

Q 何名通所していますか。支援のこだわりを教えてください。
A 通所者は6名でスタッフは4名です。当初と比べ子ども笑顔が増えました。子どもたちも人や動物、地域、自然とかかわりながら子どもと支援者が共育し合い、育ってほしい

ばと考えています。

Q 事業の状況と今後の抱負を聞かせてください。
A 計画より子どもの数が少ない状況です。SNSの発信や、角田市、山元町、新地町にも働きかけています。今後は送迎の充実を図るため、車を1台増やし、さらに施設の空きスペースを利用し、不登校の子どもたちも受け入れていきたいです。

Q 議会や町に対して、要望や意見はありますか。
A 物価高騰で大変厳しいので、灯油などの支援をお願いしたいです。町職員や議員の皆さんにもぜひ見学していただき、町との意見交換など交流の場を設けて欲しいです。

(大槻 孝雄 委員)

表紙のことは



竹を伐採して出荷できるように整えていると、子どもたちが登って無邪気に遊んでいました。

放置された竹藪は、地域課題の一因となっています。子どもが生きる未来のためにも竹材を活かす実践者が増えることを期待します。(耕野地区 玉手 孝行さん)

議会だよりの表紙の写真を募集しています。

募集要項等の詳細については、議会事務局のホームページをご覧ください。

スマホで議会が見られます

本会議の映像をネットで **ライブ中継**しています

● 一般質問は過去の録画映像を常に視聴できます



次の議会は

3月3日(火) 午前10時
開会予定

● 日程が変更になる場合があります

問い合わせ先 議会事務局
☎0224-72-3038



議会広報常任委員会

委員長	鈴木美智子
副委員長	山本 明徳
委員	八巻 眞由
	中津川 あり
	大槻 孝雄
	金森 裕之